

## 7. 生物多様性について

### 概要

生物多様性というコトバはよく聞きますが、どういう意味でしょうか。ある地域に、「いろいろな種類の生物がいること」だけではありません。「たくさん数がいる」だけでもありません。「いろいろな生物が多種多様いて、それらが適切なバランスを保って共存共栄している」という意味合いも含まれます。平成4年（1992年）生物の多様性に関する条約（略称：生物多様性条約）が締結されて以後、とくに有名になりました。

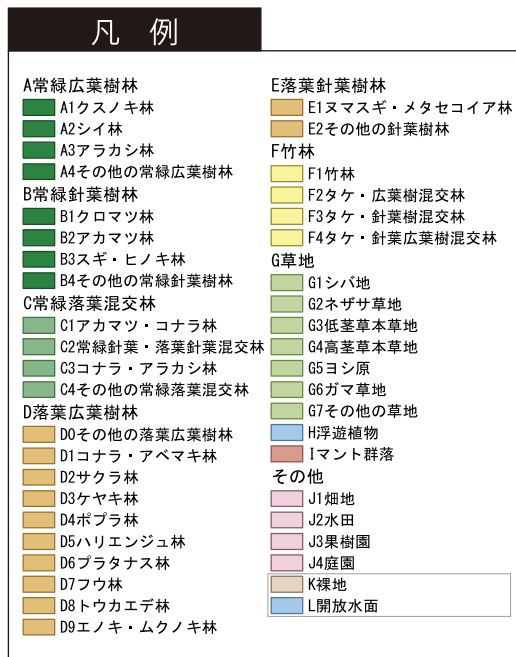
### 緑被率から見た生物多様性の変化

生物多様性について、吹田市内の植物分布から見てみましょう。

緑被率はこの10年間で、18.8%から18.9%に0.1%増加しました。植物の生えている土地の面積が増えたこととなります。でも、以前に比べてシイ林やアカマツ林、各種草地などいろいろな植物が生えている割合が減って、それ以外の“常緑落葉混交林”や“タケと樹木の混交林”などの「特定の林や草地」の面積が増えました。

植物が変わると昆虫や鳥やその他の動物も変わります。全体として、吹田市内の生物多様性は小さくなり、単純化してきていることとなります。

なお、緑被率は、13～14ページの現存相観植生図をもとに、凡例（右図）の「K裸地」と「L開放水面」を除いた面積をGISで計算し、それを合計して求めました。グラフ（下図）はその内訳です。



緑被面積の変化

